



東京医科歯科大学の過去から現在までの
トピックス、エピソードをピックアップして紹介します。

法皇塚古墳

6世紀後半／全長54.5m



教養部のある国府台キャンパスの航空写真(上)。前方部は体育館側、
後円部は福利厚生棟側となる。木々が生い茂る法皇塚古墳(下)。前方部
(右)と後円部(左)の間のくびれ部が確認できる。

緑豊かな千葉県市川市の国府台キャンパスには一段と緑深い一角がある。
丘のように見えるこの場所は法皇塚古墳と名付けられた前方後円墳で、
昭和44年の明治大学考古学研究室による発掘調査で詳細が明らかになった。
全長54・5m、後円部の直径27m、高さ5・7m、
前方部の幅35mと古墳時代後期の千葉県北西部では最大規模となる。
後円部にある横穴式の石室は5世紀以降に普及した埋葬が可能な埋葬施設。
石室の全長は7・55mで木棺に埋葬された遺体のほか、
武具や馬具、ガラス玉といった装身具など多数の副葬品が見つかった。
豪華な副葬品から被葬者はヤマト王権と密接に関わる首長とみられている。
これらの出土品は、貴重資料として市川考古博物館に展示されている。



家形の埴輪(左上、全長81cm)
は後円部の埴頂に、人物の埴輪
(上、全長62cm)は墳丘西面か
ら出土された。左は馬具の一種
である鏡板付轡(かがみいたつき
くつわ)。緑色の部分は、鉄に金
銅板をはりつけた名残。
(市川考古博物館蔵)